


# 恐怖新聞【平成版】怪奇！心霊ファイル

【きょうふしんぶん へいせいばん かいき!しんれいふぁいる】

ジャンル	アドベンチャー	
対応機種	プレイステーション2	
発売元	コナミ	
開発元	アトリエドゥーブル	
発売日	2003年8月7日	
定価	6800円	
分類	クソゲー判定	
ポイント	ダラダラのストーリー 見つらいだけの画面 配達霊が倒せない	

## 概要

つのだじろうの同名漫画が原作だが、ポルターガイスト(恐怖新聞を届ける悪霊)以外の登場人物はオリジナル。また、ストーリーもオリジナルとなっている。

- ▶ 一応付け加えると、70年代におけるオカルトブームの火付け役となった「恐怖新聞」ではなく、近年になってセルフリメイクされた「恐怖新聞平成版」を基にしている。  
上記のとおりほぼゲームオリジナル設定なのだが。

## 問題点

- ▶ ゲームは章立てで、サウンドノベルの様にテキストを読んでいくパートと、主人公を操作して探索を行うパートからなっている。
  - ▶ テキストパートは、文章スキップ不能。またやたらと回りくどい表現が多く、テンポが悪い。選択肢も登場するが、どれを選んでもストーリーは結局一本道である。
  - ▶ 探索パートは十字キーではなくスティックで操作するが、入力判定がシビアで、すぐに真後ろを向くなど、操作性は悪い。またこちらのパートも一本道で、ある場所を調べたら話が進み、また別の場所を調べ...という風に、完全な「お使いゲー」となっている。
  - ▶ 画面の明暗調整機能が付いているのだが、説明書に書かれている「お薦めの暗さ」でプレイしていると確実に撮影所のマップで進めなくなる。  
というか見学に来ているのに明かりを点けずに懐中電灯持ってウロつく主人公...
- ▶ どの章も上記のような理由で冗長かつ進めにくい上、セーブは各章のクリア後にしか出来ない。
- ▶ 学校に行くことで心霊写真撮影モードに移行するが、校舎内の特定の場所でしか撮影できない上に撮影回数も決まっており、しかも撮影しても何も写らないこともある。
  - ▶ 更に、この心霊写真の解説テキストが酷過ぎる。  
「詳しく知りたければ、霊能者を呼んで、とにかく解説させるしかない。しかし解説させても、それが絶対正しい意見だとは言えない。霊能者だからといって鵜呑みにはできないのだ。間違えることだってある。結局のところ、どう受け取るかはそれぞれの感性次第という事だ」  
「そもそもこの写真が何か霊障に関わってのものなのか、あるいは光学的なものなのかもわからない」  
「誰もいないところでドンって音がするから行ってみると、後で食べようと階段の途中に置いておいた出前

が、下へ落ちていた。そう簡単に落ちないって思っていたからそこに置いてあったわけだが」  
...駄遺産テキストか!?

+ そして最悪なのがストーリー。